

【第5回】福島12市町村の将来像に関する有識者検討会

浜通りにおける醸造用葡萄栽培と ワイン醸造の人材育成について

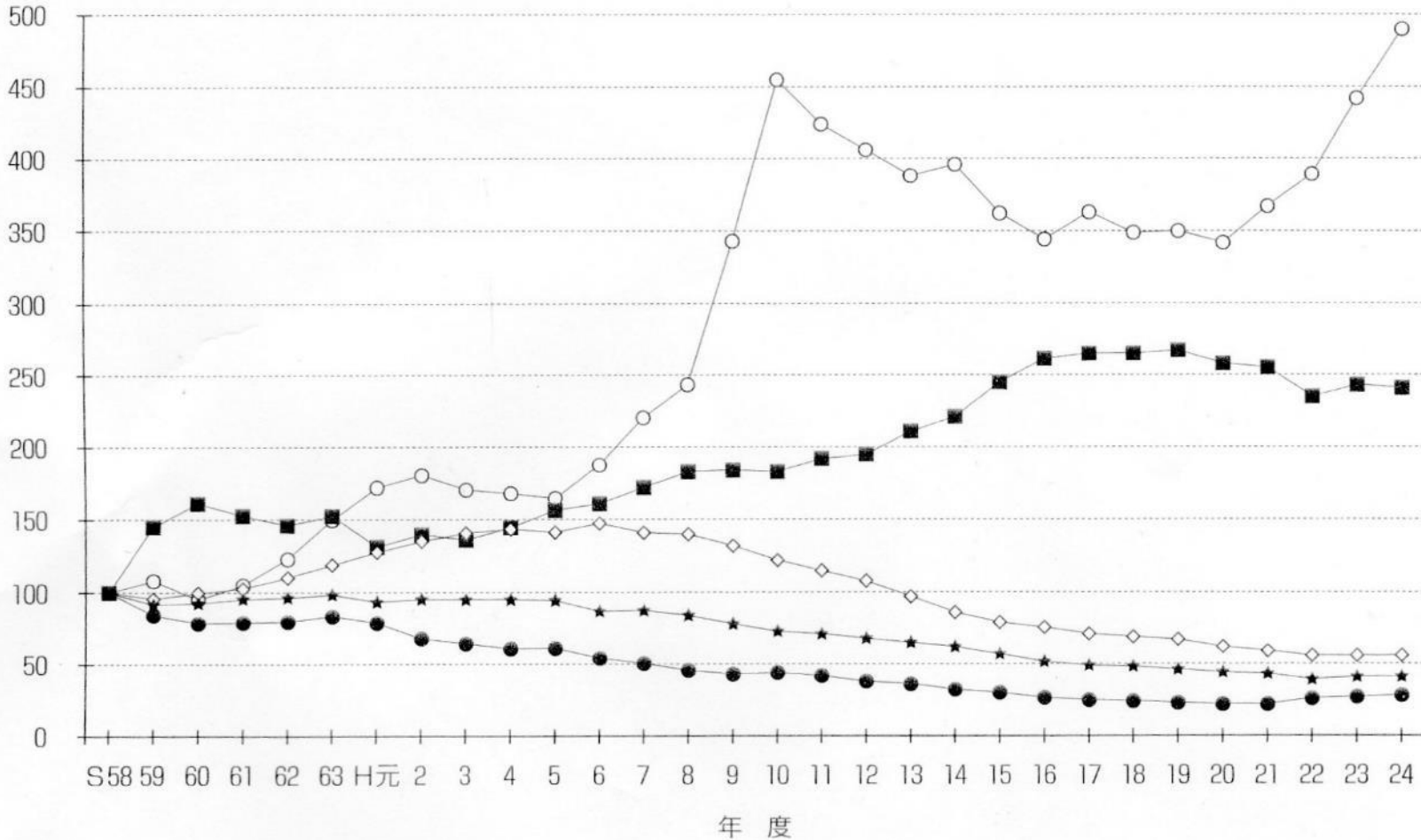
三澤 茂計

中央葡萄酒株式会社 代表取締役社長

一般社団法人 日本葡萄酒革進協会 (Japan Wine Innovation Society) 代表理事

国内の酒類生産量の変化

指数 昭和58年度(1983年度)=100



○— 果実酒

■— 焼酎

◇— ビール

★— 清酒

●— ウイスキー等

世界のワイン醸造と日本のワイン醸造



世界標準

日本の現状

醸造と栽培の
分業

生食ブドウ
栽培へ研究が
集中

「ワインの品質はブドウによって決まる」

世界意識をもって栽培に着手

中央葡萄酒株式会社



- 社員 25名、売上 500,000(千円)
- 1923年に創業、4代継承されてきた家業経営
- 山梨県内、勝沼町と明野町に2つのワイナリー



明野・三澤農場 2002年4月開園



北杜市明野町(北緯35.8度、東経138.5度)
約12ha(内甲州種は4ha)
標高:約650-700m
土壌:粘土混じりの火山灰質



「甲州」品種の垣根式栽培の畑（高畝式）



甲州の本格的規模垣根栽培 2009～



その先に見えるワイン造り

栽培に加えて、徹底した選果（粒選り）



海外18ヶ国にワインを輸出



- 影響力の大きなロンドン市場に着目
- ヨーロッパ

英国、フランス、イタリア、スウェーデン、
ベルギー、オランダ、ドイツ、スイス

- オーストラリア、ニュージーランド
- アメリカ
- ロシア
- アジア

シンガポール、マレーシア、タイ、
中国(香港・上海・マカオ)、台湾、インドネシア

- デカンタ・ワールド・ワイン・アワーズ(ロンドン)

キュヴェ三澤明野甲州2013金賞・地域最高賞



海外のグランメゾンに
オンリスト
Hertog Jan(ヘルトーク・ヤン)
Brugge, Belgium



- 「宿命的風土論」を超えて（麻井宇介氏から学んだこと）
- 気象・土質を絶対視しない
- 人の営為が風土をつくり上げる（大気候・中気候・小気候）

「風」とは、自然に働きかける人間の営為
「土」とは、人間が耕してつくりあげた土壌



気象条件を克服する人々の努力が
風土をつくり上げる

1. 復興に資する新たな農業への取り組み

- ・ 持続・自立可能な農業を目指す（付加価値の高い製品）
- ・ セシウムが葡萄果実への移行率は低いと考えられる

2. 浜通りの気候、土壌のポテンシャル

- ・ 浜通りの年間日照量（通年では東北で一番長い）
- ・ 阿武隈山系は花崗岩質
（水はけが良い、必ずしも肥沃な土地を必要としない）

エノログ

- 確認された科学的・技術的知識をもとに、専門教育によって、ワイン専門分野の職務を行うことができる栽培技術者と醸造技術者
- 国際資格に準ずる教育を国内で実現（井の中の蛙では限界）

福島県の風土、国民性に裏打ちされたワイン

- 高度教育に向けた教師陣の発掘を世界から
- 福島の個性を見出し、福島の風土、文化が薫る高品質のワインを…
- 福島から発信とは福島に集結である



今後考えられる取り組み



- 福島県浜通りにおいて葡萄栽培とワイン醸造を永続的な復興事業として企画
 - 競争力のあるワインを製造し6次産業化の推進に貢献できる高度人材の育成の場を福島県内に構築することを目指す
-
- 一般社団法人日本葡萄酒革進協会を設立
 - 福島大学、山梨大学、中央葡萄酒(株)が協力
 - 先行栽培に向けた取り組み
 - 放射性セシウムの葡萄果実への移行係数の調査、検証
 - 人材育成システム構築の検討